

熊野灘臨海公園

熊野灘臨海公園は、紀北町にある全体計画530.8㍍の大規模公園のレクリエーション都市で、恵まれた自然条件を十分に活用し、大都市圏の住民の多様なレクリエーション需要に対応するため整備を進めています。なお、本公園の公園施設は片上池地区、城の浜地区、道瀬・三浦地区、大白地区の4地区に大きく分かれています。昭和53年に片上池地区で園路を部分供用開始後、城の浜地区では昭和55年にプール、昭和62年に体育館、昭和63年にテニスコート、平成4年に孫太郎オートキャンプ場、平成9年に公園管理棟、大白地区では平成10年にテニスコートを順次整備し、現在は63.05㍍を部分供用中です。なお、片上池地区にある道の駅「紀伊長島マンボウ」は、国道42号の利用者の休憩場所として多くの方に利用されています。また、ウォーキング利用者が多いのが特徴です。

・片上池地区

熊野灘臨海公園のエントランス地区としてだけでなく、東紀州地域のエントランスとして、多くの方に利用されています。また、世界遺産の熊野古道に訪れた方々にも当該公園は利用されています。

・城の浜地区

(社)日本オートキャンプ協会による5つ星評価を過去に受けたことがある孫太郎オートキャンプ場、プール（平成30年度は運営休止）、民間による宿泊施設ホテル「季の座」等があり、自然とのふれあいの中で、子供から大人までさまざまなレクリエーションを満喫することができます。熊野灘臨海公園の中心的な地区として、夏場には関西圏や中京圏の方も多く利用されています。

・道瀬・三浦地区

道瀬・三浦地区は、背後には険しい山々が迫り、前面に広がるリアス式海岸の美しい背景とあいまって、自然の雄大さと優美さのある美しい景観となっています。熊野灘臨海公園内でも特に自然に恵まれた場所とされています。

・大白地区

大白地区は、大白池を周遊できる園路や夜間照明設備を備えたテニスコート等が整備されています。当地区の立地条件もあり、地元住民の方が主に利用され

ています。

【公園の基本的事項】

(1) 施設の設置目的

大都市地域からのレクリエーション需要に対応するとともに、豊かな自然の中で地域住民がレクリエーション活動、健康づくりなどを通じて心身をリフレッシュする場を提供する。

(2) 施設運営の基本的な方向性（基本方針）

- ・熊野灘臨海公園の果たす役割や効用の最大化
- ・より良いサービスの提供、適切かつ効率的な公園の管理運営

(3) 利用者の推移

- ・H29年度 659,210人
- ・H28年度 580,503人
- ・H27年度 562,887人